

# 社 会

## 注 意

- 1 問題は  から  までで、12 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は 50 分で、終わりは午後 2 時 00 分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に HB 又は B の鉛筆 (シャープペンシルも可) を使って明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えは特別の指示のあるもののほかは、各問のア・イ・ウ・エのうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号の  の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 6 答えを記述する問題については、解答用紙の決められた欄からはみ出さないように書きなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
- 8 受検番号を解答用紙の決められた欄に書き、その数字の  の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

問題は次のページからです。

1 次の各問に答えよ。

〔問1〕 次の図は、神奈川県藤沢市の「江の島」の様子を地域調査の発表用資料としてまとめたものである。この地域の景観を、●で示した地点から矢印➡の向きに撮影した写真に当てはまるのは、下のア～エのうちではどれか。

### 発表用資料

**江の島の地域調査**      調査日 令和元年11月16日(土) 天候 晴れ

自然地理コース トンボロ(陸繋島) → ヨットハーバー → 海食台と海食崖

○ 片瀬江ノ島駅から海岸沿いを進み、  
●で示した地点から➡の向きに写真を撮った。

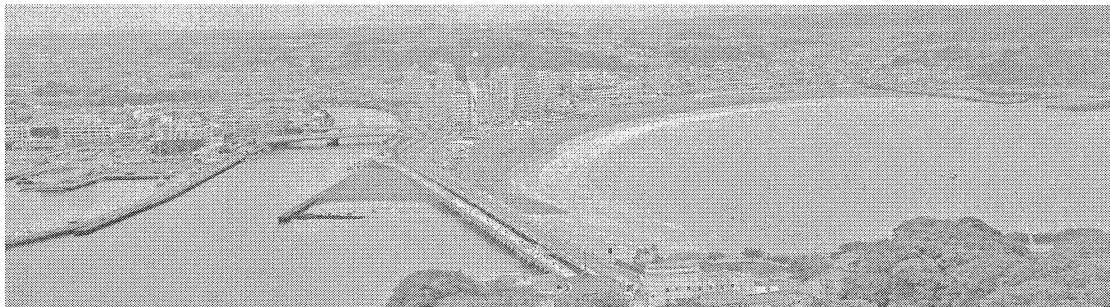
南側      展望灯台   北側

船から江の島が見られる。

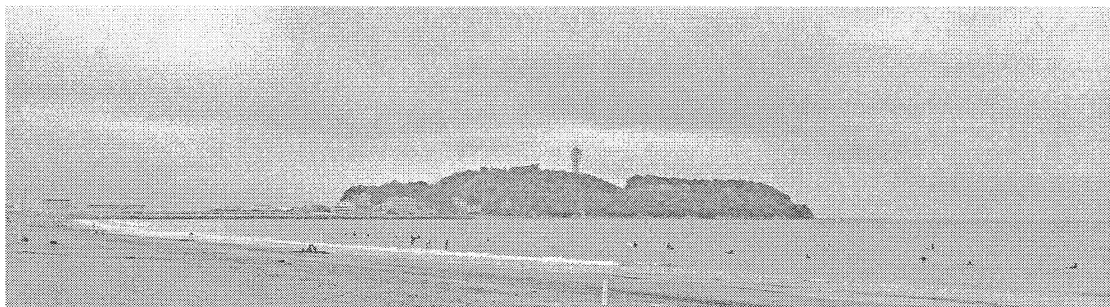
江の島ヨットハーバー  
東京2020オリンピック・パラリンピックの準備が進んでいる。

- 江ノ島大橋を渡る時には、橋の下に、砂が堆積した部分が見えた。
- 島の東側を南に進むと、切り立った崖が見えた。
- 島の南側では、海が浸食した地形が観察できた。

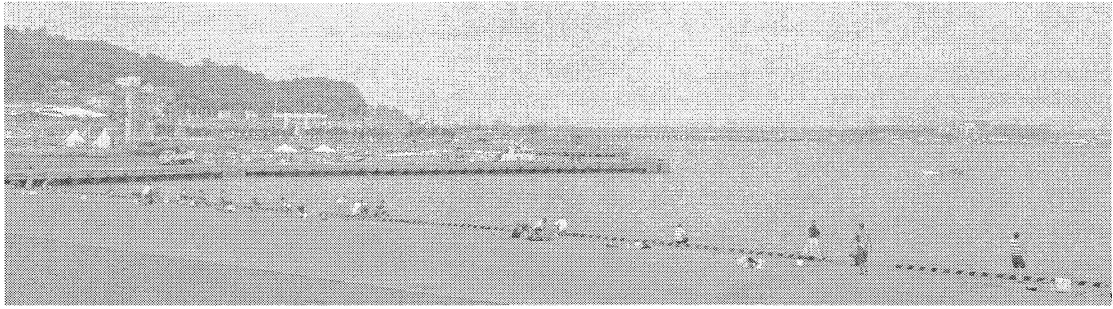
ア



イ



ウ

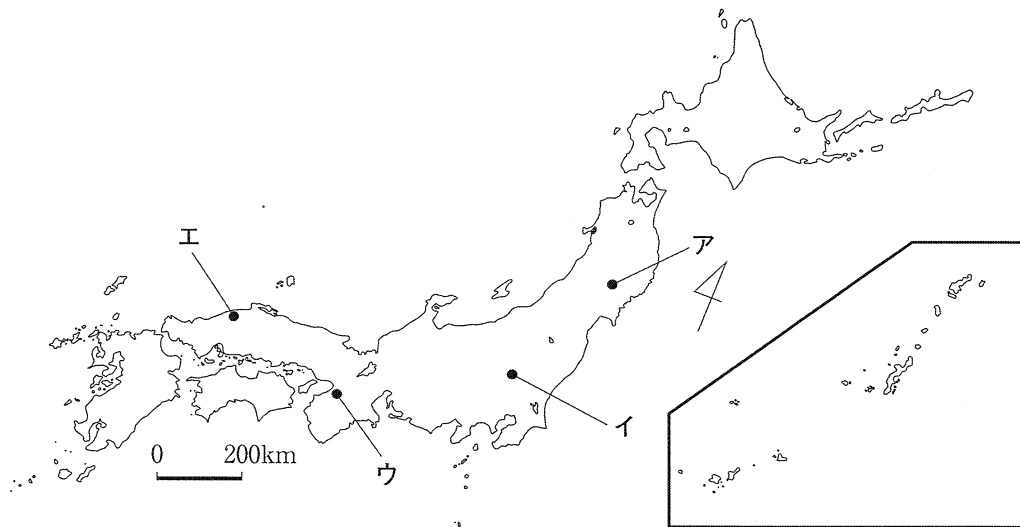


エ



〔問2〕 次のⅠの略地図中のア～エは、世界遺産に登録されている我が国の主な歴史的文化財の所在地を示したものである。Ⅱの文で述べている歴史的文化財の所在地に当てはまるのは、略地図中のア～エのうちのどれか。

Ⅰ



Ⅱ

5世紀中頃に造られた、<sup>おおきみ</sup>大王の墓と言われる日本最大の面積を誇る前方後円墳で、周囲には三重の堀が巡らされ、古墳の表面や頂上等からは、人や犬、馬などの形をした埴輪<sup>はにわ</sup>が発見されており、2019年に世界遺産に登録された。

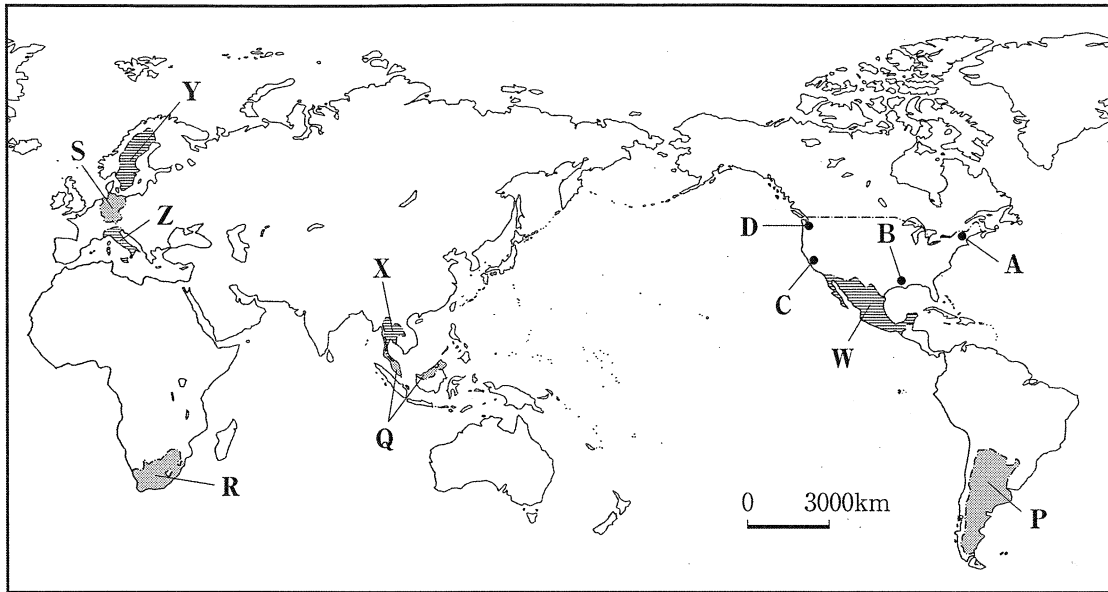
〔問3〕 次の文で述べている国際連合の機関に当てはまるのは、下のア～エのうちのどれか。

国際紛争を調査し、解決方法を勧告する他、平和を脅かすような事態<sup>おびや</sup>の発生時には、経済封鎖や軍事的措置などの制裁を加えることができる主要機関である。

- |                |           |
|----------------|-----------|
| ア 国連難民高等弁務官事務所 | イ 安全保障理事会 |
| ウ 世界保健機関       | エ 国際司法裁判所 |

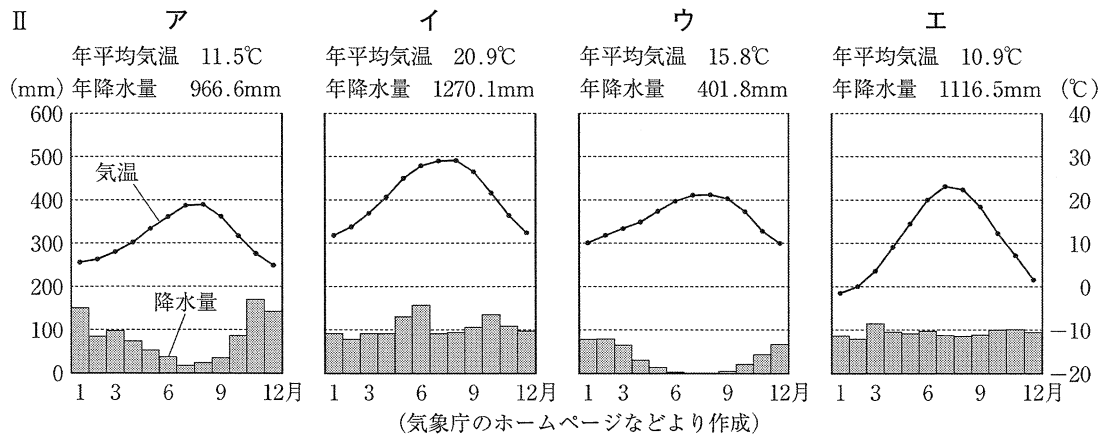
2


次の略地図を見て、あとの各問に答えよ。



〔問1〕 次のⅠの文章は、略地図中のA～Dのいずれかの都市の様子についてまとめたものである。Ⅱのグラフは、A～Dのいずれかの都市の、年平均気温と年降水量及び各月の平均気温と降水量を示したものである。Ⅰの文章で述べている都市に当てはまるのは、略地図中のA～Dのうちのどれか、また、その都市のグラフに当てはまるのは、ⅡのA～エのうちのどれか。

Ⅰ サンベルト北限付近に位置し、冬季は温暖で湿潤だが、夏季は乾燥し、寒流の影響で高温にならず、一年を通して過ごしやすい。周辺には1885年に大学が設立され、1950年代から半導体の生産が始まり、情報分野で世界的な企業が成長し、現在も世界各国から研究者が集まっている。




〔問2〕 次の表のA～エは、略地図中に  で示したP～Sのいずれかの国の、2017年における自動車の生産台数、販売台数、交通や自動車工業の様子についてまとめたものである。略地図中のP～Sのそれぞれの国に当てはまるのは、次の表のA～エのうちではどれか。

	自動車		交通や自動車工業の様子
	生産 (千台)	販売 (千台)	
ア	460	591	○年間数万隻の船舶が航行する海峡に面する港に高速道路が延び、首都では渋滞解消に向け鉄道が建設された。 ○1980年代には、日本企業と協力して熱帯地域に対応した国民車の生産が始まり、近年は政策としてハイブリッド車などの普及を進めている。

イ	472	900	○現在も地殻変動が続き、国土の西側に位置し、国境を形成する山脈を越えて、隣国まで続く高速道路が整備されている。 ○2017年は、隣国の需要の低下により乗用車の生産が減少し、パンパでの穀物生産や牧畜で使用されるトラックなどの商用車の生産が増加した。
ウ	5646	3811	○国土の北部は氷河に削られ、城郭都市の石畳の道や、1930年代から建設が始まった速度制限のない区間が見られる高速道路が整備されている。 ○酸性雨の被害を受けた経験から、自動車の生産では、エンジンから排出される有害物質の削減に力を入れ、ディーゼル車の割合が減少している。
エ	590	556	○豊富な地下資源を運ぶトラックから乗用車まで様々な種類の自動車が見られ、1970年代に高速道路の整備が始められた。 ○欧州との時差が少なく、アジアまで船で輸送する利便性が高いことを生かして、欧州企業が日本向け自動車の生産拠点を置いている。

(「世界国勢図会」2018/19年版などより作成)

〔問3〕 次のⅠとⅡの表のA～Eは、略地図中に  で示したW～Zのいずれかの国に当てはまる。Ⅰの表は、1993年と2016年における進出日本企業数と製造業に関わる進出日本企業数、輸出額が多い上位3位までの貿易相手国、Ⅱの表は、1993年と2016年における日本との貿易総額、日本の輸入額の上位3位の品目と日本の輸入額に占める割合を示したものである。Ⅲの文章は、ⅠとⅡの表におけるA～Eのいずれかの国について述べたものである。Ⅲの文章で述べている国に当てはまるのは、略地図中のW～Zのうちのどれか、また、ⅠとⅡの表のA～Eのうちのどれか。

		進出日本企業数		輸出額が多い上位3位までの貿易相手国		
			製造業	1位	2位	3位
A	1993年	875	497	アメリカ合衆国	日 本	シンガポール
	2016年	2318	1177	アメリカ合衆国	中華人民共和国	日 本
イ	1993年	44	4	ド イ ツ	イ ギ リ ス	アメリカ合衆国
	2016年	80	19	ノ ル ウ ェ ー	ド イ ツ	デンマーク
ウ	1993年	113	56	アメリカ合衆国	カ ナ ダ	ス ペ イ ン
	2016年	502	255	アメリカ合衆国	カ ナ ダ	中華人民共和国
エ	1993年	164	46	ド イ ツ	フ ラ ン ス	アメリカ合衆国
	2016年	237	72	ド イ ツ	フ ラ ン ス	アメリカ合衆国

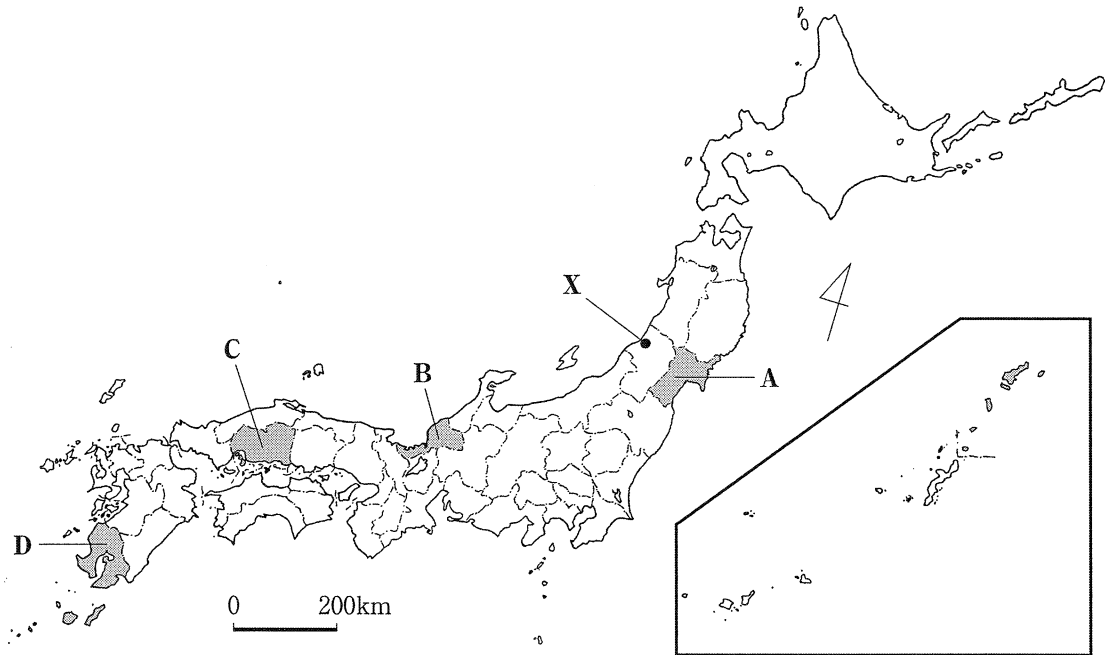
(国際連合「貿易統計年鑑」2016などより作成)


		貿易総額 (億円)	日本の輸入額の上位3位の品目と日本の輸入額に占める割合(%)					
			1位		2位		3位	
A	1993年	20885	魚介類	15.3	一般機械	11.3	電気機器	10.7
	2016年	51641	電気機器	21.1	一般機械	13.6	肉類・同調製品	8.0
イ	1993年	3155	電気機器	20.4	医薬品	16.7	自動車	15.3
	2016年	3970	医薬品	29.4	一般機械	11.9	製材	9.7
ウ	1993年	5608	原油・粗油	43.3	塩	8.1	果実及び野菜	7.8
	2016年	17833	原油	23.2	電気機器	17.0	自動車部品	7.9
エ	1993年	7874	一般機械	11.6	衣類	10.3	織物用糸・繊維製品	10.2
	2016年	14631	一般機械	12.1	バッグ類	10.9	医薬品	10.0

(国際連合「貿易統計年鑑」2016などより作成)

Ⅲ 雨季と乾季があり、国土の北部から南流し、首都を通り海に注ぐ河川の両側に広がる農地などで生産される穀物が、1980年代まで主要な輸出品であったが、1980年代からは工業化が進んだ。2016年には、製造業の進出日本企業数が1993年と比較し2倍以上に伸び、貿易相手国として中華人民共和国の重要性が高まった。また、この国と日本との貿易総額は1993年と比較し2倍以上に伸びており、電気機器の輸入額に占める割合も2割を上回るようになった。

3 次の略地図を見て、あとの各問に答えよ。



〔問1〕 次の表のア～エの文章は、略地図中に  で示した、A～Dのいずれかの県の、2017年における鉄道の営業距離、県庁所在地（市）の人口、鉄道と県庁所在地の交通機関などの様子についてまとめたものである。略地図中のA～Dのそれぞれの県に当てはまるのは、次の表のア～エのうちではどれか。

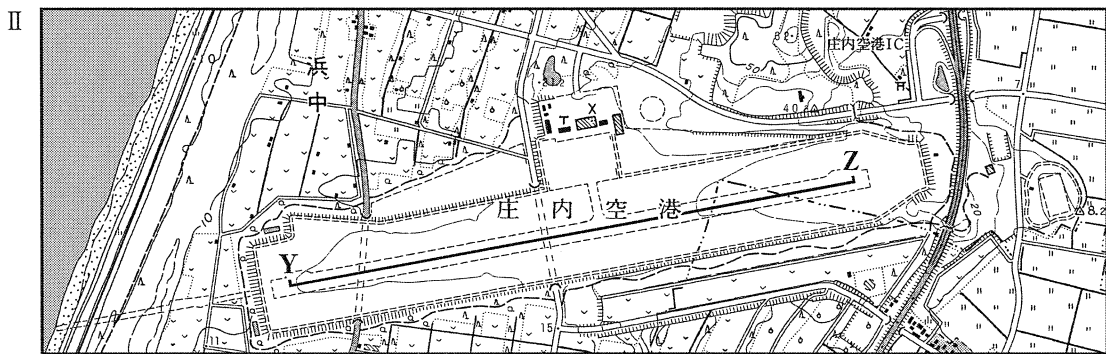
	営業距離(km)	鉄道と県庁所在地の交通機関などの様子
	人口(万人)	
ア	710	○内陸部の山地では南北方向に、造船業や鉄鋼業が立地する沿岸部では東西方向に鉄道が走り、新幹線の路線には5駅が設置されている。
	119	○この都市では、中心部には路面電車が見られ、1994年に開業した鉄道が北西の丘陵地に形成された住宅地と三角州上に発達した都心部とを結んでいる。
イ	295	○リアス海岸が見られる地域や眼鏡産業が立地する平野を鉄道が走り、2022年には県庁所在地を通る新幹線の開業が予定されている。
	27	○この都市では、郊外の駅に駐車場が整備され、自動車から鉄道に乗り換え通勤できる環境が整えられ、城下町であった都心部の混雑が緩和されている。
ウ	642	○南北方向に走る鉄道と、西側に位置する山脈を越え隣県へつながる鉄道などがあり、1982年に開通した新幹線の路線には4駅が設置されている。
	109	○この都市では、中心となるターミナル駅に郊外から地下鉄やバスが乗り入れ、周辺の道路には町を象徴する街路樹が植えられている。
エ	423	○石油の備蓄基地が立地する西側の半島に鉄道が走り、2004年には北西から活動中の火山の対岸に位置する県庁所在地まで新幹線が開通した。
	61	○この都市では、路面電車の軌道を芝生化し、緑豊かな環境が整備され、シラス台地に開発された住宅地と都心部は、バス路線で結ばれている。

(「データで見る県勢」第27版などより作成)

〔問2〕 次のページのⅠとⅡの地形図は、1988年と1998年の「国土地理院発行2万5千分の1地形図(湯野浜<sup>めのはま</sup>)」の一部である。Ⅲの文章は、略地図中にX<sup>しょうないくわう</sup>で示した庄内空港が建設された地域について、ⅠとⅡの地形図を比較して述べたものである。Ⅲの文章の **P** ～ **S** のそれぞれに当てはまるのは、次のページのアとイのうちではどれか。なお、Ⅱの地形図上において、Y-Z間の長さは8cmである。



(1988年)



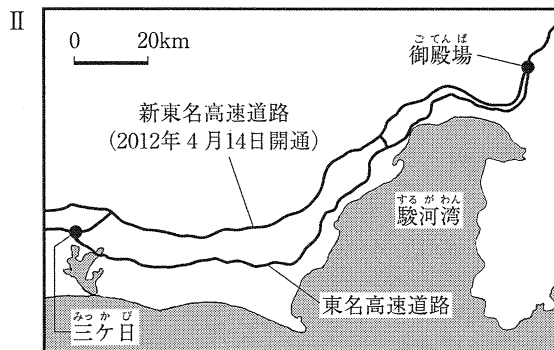
(1998年)

III この空港は、主に標高が約10mから約 **P** mにかけて広がる **Q** であった土地を造成して建設された。ジェット機の就航が可能となるよう約 **R** mの長さの滑走路が整備され、海岸沿いの針葉樹林は、**S** から吹く風によって運ばれる砂の被害を防ぐ役割を果たしている。

<b>P</b>	ア 40	イ 80	<b>Q</b>	ア 果樹園・畑	イ 水田
<b>R</b>	ア 1500	イ 2000	<b>S</b>	ア 南東	イ 北西

〔問3〕 次のIの文章は、2012年4月に示された「つなぐ・ひろがる しずおかの道」の内容の一部をまとめたものである。IIの略地図は、2018年における東名高速道路と新東名高速道路の一部を示したものである。IIIの表は、IIの略地図中に示した御殿場から三ヶ日までの、東名と新東名について、新東名の開通前（2011年4月17日から2012年4月13日までの期間）と、開通後（2014年4月13日から2015年4月10日までの期間）の、平均交通量と10km以上の渋滞回数を示したものである。自然災害に着目し、IとIIの資料から読み取れる、新東名が現在の位置に建設された理由と、平均交通量と10km以上の渋滞回数に着目し、新東名が建設された効果について、それぞれ簡単に述べよ。

- I
- 東名高速道路は、高波や津波などによる通行止めが発生し、経済に影響を与えている。
  - 東名高速道路は、全国の物流・経済を支えており、10km以上の渋滞回数は全国1位である。



III

		開通前	開通後
東名	平均交通量(千台/日)	73.2	42.9
	10km以上の渋滞回数(回)	227	4
新東名	平均交通量(千台/日)	—	39.5
	10km以上の渋滞回数(回)	—	9

(注) —は、データが存在しないことを示す。  
(中日本高速道路株式会社作成資料より作成)



4 次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

紙は、様々な目的に使用され、私たちの生活に役立ってきた。

古代では、様々な手段で情報を伝え、支配者はクニと呼ばれるまとまりを治めてきた。我が国に紙が伝来すると、支配者は、公的な記録の編纂や情報の伝達に紙を用い、政治を行ってきた。

中世に入ると、(1) 屋内の装飾の材料にも紙が使われ始め、我が国独自の住宅様式の確立につながっていった。

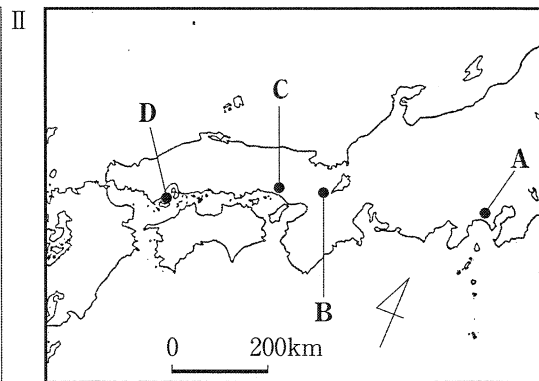
江戸時代には、各藩のひっ迫した財政を立て直すために工芸作物の生産を奨励される中で、各地で紙が生産され始め、人々が紙を安価に入手できるようになった。(3) 安価に入手できるようになった紙は、書物や浮世絵などの出版にも利用され、文化を形成してきた。

明治時代以降、欧米の進んだ技術を取り入れたことにより、従来から用いられていた紙に加え、西洋風の紙が様々な場面で使われるようになった。さらに、(4) 生産技術が向上すると、紙の大量生産も可能となり、新聞や雑誌などが広く人々に行き渡るようになった。

- [問1] (1) 支配者は、公的な記録の編纂や情報の伝達に紙を用い、政治を行ってきた。とあるが、次のア～エは、飛鳥時代から室町時代にかけて、紙が政治に用いられた様子について述べたものである。時期の古いものから順に記号を並べよ。
- ア 大宝律令が制定され、天皇の文書を作成したり図書の管理をしたりする役所の設置など、大陸の進んだ政治制度が取り入れられた。
  - イ 武家政権と公家政権の長所を政治に取り入れた建武式目が制定され、治安回復後の京都に幕府が開かれた。
  - ウ 全国に支配力を及ぼすため、紙に書いた文書により、国ごとの守護と荘園や公領ごとの地頭を任命する政策が、鎌倉で樹立された武家政権で始められた。
  - エ 各地方に設置された国分寺と国分尼寺へ、僧を派遣したり経典の写本を納入したりするなど、様々な災いから仏教の力で国を守るための政策が始められた。

[問2] (2) 屋内の装飾の材料にも紙が使われ始め、我が国独自の住宅様式の確立につながっていった。とあるが、次のⅠの略年表は、鎌倉時代から江戸時代にかけての、我が国の屋内の装飾に関する主な出来事についてまとめたものである。Ⅱの略地図中のA～Dは、我が国の主な建築物の所在地を示したものである。Ⅲの文は、ある時期に建てられた建築物について述べたものである。Ⅲの文で述べている建築物が建てられた時期に当てはまるのは、Ⅰの略年表中のア～エの時期のうちではどれか。また、Ⅲの文で述べている建築物の所在地に当てはまるのは、Ⅱの略地図中のA～Dのうちどれか。

Ⅰ	西暦	我が国の屋内の装飾に関する主な出来事	
	1212	● 鴨長明が「方丈記」の中で、障子の存在を記した。	ア
	1351	● 藤原隆昌と父が「慕孀絵」の中で、襖に絵を描く僧の様子を表した。	イ
	1574	● 織田信長が上杉謙信に「洛中洛外図屏風」を贈った。	ウ
	1626	● 狩野探幽が二条城の障壁画を描いた。	エ
	1688	● 屏風の売買の様子を記した井原西鶴の「日本永代蔵」が刊行された。	



Ⅲ 慈照寺にある東求堂同仁齋には、障子や襖といった紙を用いた建具が取り入れられ、我が国の和室の原点と言われる書院造の部屋が造られた。

〔問3〕<sup>(3)</sup>安価に入手できるようになった紙は、書物や浮世絵などの出版にも利用され、文化を形成してきた。とあるが、次の文章は、江戸時代の医師が著した「後見草」の一部を分かりやすく示したものである。下のア～エは、江戸時代に行われた政策について述べたものである。この書物に書かれた出来事の4年後から10年後にかけて主に行われた政策について当てはまるのは、下のア～エのうちではどれか。

- 天明3年7月6日夜半、西北の方向に雷のような音と振動が感じられ、夜が明けても空はほの暗く、庭には細かい灰が舞い降りていた。7日は灰がしだいに大粒になり、8日は早朝から激しい振動が江戸を襲ったが、当初人々は浅間山が噴火したとは思わず、日光か筑波山で噴火があったのではないかと噂し合った。
- ここ3、4年、気候も不順で、五穀の実りも良くなかったのに、またこの大災害で、米価は非常に高騰し、人々の困窮は大変なものだった。

- ア 物価の引き下げを狙って、公認した株仲間を解散させたり、外国との関係を良好に保つよう、外国船には燃料や水を与えるよう命じたりするなどの政策を行った。
- イ 投書箱を設置し、民衆の意見を政治に取り入れたり、税収を安定させて財政再建を図ることを目的に、新田開発を行ったりするなどの政策を行った。
- ウ 税収が安定するよう、株仲間を公認したり、長崎貿易の利益の増加を図るため、俵物と呼ばれる海産物や銅の輸出を拡大したりするなどの政策を行った。
- エ 幕府が旗本らの生活を救うため借金を帳消しにする命令を出したり、江戸に出稼ぎに来ていた農民を農村に返し就農を進め、飢饉に備え各地に米を蓄えさせたりするなどの政策を行った。

〔問4〕<sup>(4)</sup>生産技術が向上すると、紙の大量生産も可能となり、新聞や雑誌などが広く人々に行き渡ることになった。とあるが、次の略年表は、明治時代から昭和時代にかけての、我が国の紙の製造や印刷に関する主な出来事についてまとめたものである。略年表中のAの時期に当てはまるのは、下のア～エのうちではどれか。

西暦	我が国の紙の製造や印刷に関する主な出来事
1873	● <sup>しおさわいいち</sup> 渋沢栄一により洋紙製造会社が設立された。
1876	●日本初の純国産活版洋装本が完成した。
1877	●国産第1号の洋式紙幣である国立銀行紙幣が発行された。
1881	●日本で初めての肖像画入り紙幣が発行された。
1890	●東京の新聞社が、フランスから輪転印刷機を輸入し、大量高速印刷が実現した。
1904	●初の国産新聞輪転印刷機が大阪の新聞社に設置された。
1910	●北海道の <sup>とまごま</sup> 苫小牧で、新聞用紙国内自給化の道を拓く製紙工場が操業を開始した。……………
1928	●日本初の原色グラビア印刷が開始された。
1933	●3社が合併し、我が国の全洋紙生産量の85%の生産量を占める製紙会社が誕生した。……………
1940	●我が国の紙・板紙の生産量が過去最大の154万トンになった。

A

- ア 国家総動員法が制定され国民への生活統制が強まる中で、東京市が隣組回覧板を10万枚配布し、毎月2回の会報の発行を開始した。
- イ 官営の製鉄所が開業し我が国の重工業化が進む中で、義務教育の就学率が90%を超え、国定教科書用紙が和紙から洋紙に切り替えられた。
- ウ 東京でラジオ放送が開始されるなど文化の大衆化が進む中で、週刊誌や月刊誌の発行部数が急速に伸び、東京の出版社が初めて1冊1円の文学全集を発行した。
- エ 廃藩置県により、実業家や政治の実権を失った旧藩主による製紙会社の設立が東京において相次ぐ中で、政府が製紙会社に対して地券用紙を大量に発注した。

5

次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

我が国の行政の役割は、国会で決めた法律や予算に基づいて、政策を実施することである。  
 (1) 行政の各部門を指揮・監督する内閣は、内閣総理大臣と国務大臣によって構成され、国会に  
 (2) 対し、連帯して責任を負う議院内閣制をとっている。

行政は、人々が安心して暮らせるよう、社会を支える基本的な仕組みを整え、資源配分や  
 (3) 経済の安定化などの機能を果たしている。その費用は、主に国民から納められた税金により  
 (4) 賄われ、年を追うごとに財政規模は拡大している。

- 〔問1〕 我が国の行政の役割は、国会で決めた法律や予算に基づいて、政策を実施すること  
 (1) ある。とあるが、内閣の仕事の規定する日本国憲法の条文は、次のア～エのうちではどれか。  
 ア 条約を締結すること。但し、事前に、時宜によっては事後に、国会の承認を経ることを必要とする。  
 イ 両議院は、<sup>おの</sup>各々国政に関する調査を行ひ、これに関して、証人の出頭及び証言並びに記録の提出を要求することができる。  
 ウ すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。  
 エ 地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定める。

- 〔問2〕 内閣は、内閣総理大臣と国務大臣によって構成され、国会に対し、連帯して責任を負う  
 (2) 議院内閣制をとっている。とあるが、次の表は、我が国の内閣と、アメリカ合衆国の大統領の権限について、「議会に対して法律案を提出する権限」、「議会の解散権」があるかどうかを、権限がある場合は「○」、権限がない場合は「×」で示そうとしたものである。表のAとBに入る記号を正しく組み合わせているのは、下のア～エのうちのどれか。

	我が国の内閣	アメリカ合衆国の大統領
議会に対して法律案を提出する権限	○	A
議会の解散権	B	×

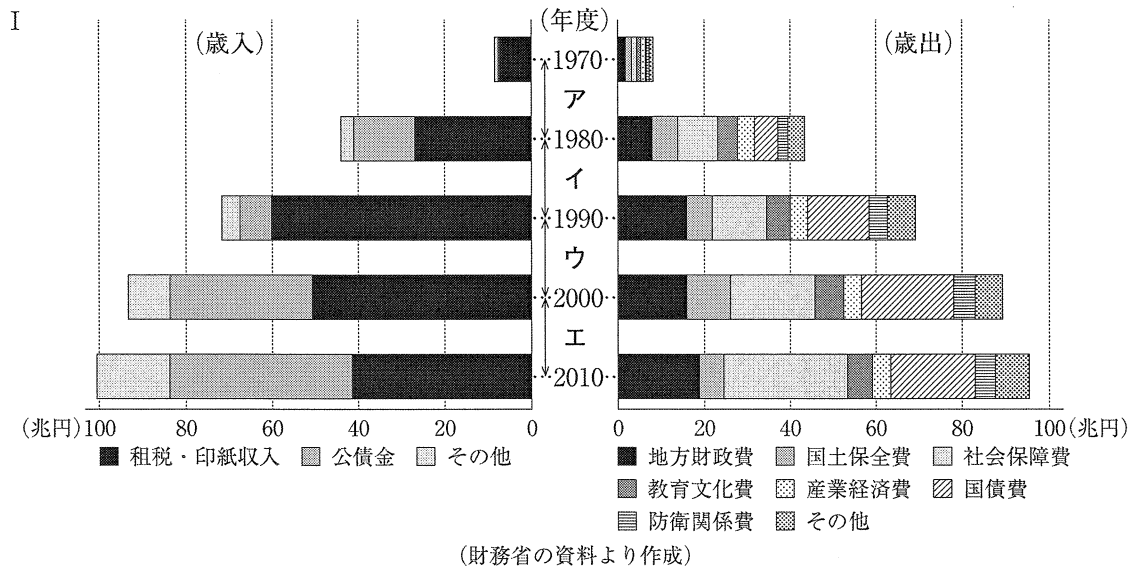
	ア	イ	ウ	エ
A	○	○	×	×
B	○	×	○	×

〔問3〕 社会を支える基本的な仕組みを整え、資源配分や経済の安定化などの機能を果たしている。とあるが、次の文章は、行政が担う役割について述べたものである。この行政が担う役割に当てはまるのは、下のア～エのうちではどれか。

社会資本は、長期間にわたり、幅広く国民生活を支えるものである。そのため、時代の変化に応じて機能の変化を見通して、社会資本の整備に的確に反映させ、蓄積・高度化を図っていくことが求められる。

- ア 収入が少ない人々に対して、国が生活費や教育費を支給し、最低限度の生活を保障し、自立を助ける。
- イ 国民に加入を義務付け、毎月、保険料を徴収し、医療費や高齢者の介護費を支給し、国民の負担を軽減する。
- ウ 保健所などによる感染症の予防や食品衛生の管理、ごみ処理などを通して、国民の健康維持・増進を図る。
- エ 公園、道路や上下水道、図書館、学校などの公共的な施設や設備を整え、生活や産業を支える。

〔問4〕 主に国民から納められた税金により賄われ、年を追うごとに財政規模は拡大している。とあるが、次のⅠのグラフは、1970年度から2010年度までの我が国の歳入と歳出の決算総額の推移を示したものである。Ⅱの文章は、ある時期の我が国の歳入と歳出の決算総額の変化と経済活動の様子について述べたものである。Ⅱの文章で述べている経済活動の時期に当てはまるのは、Ⅰのグラフのア～エの時期のうちではどれか。



Ⅱ ○この10年間で、歳入総額に占める租税・印紙収入の割合の増加に伴い、公債金の割合が低下し、歳出総額は約1.5倍以上となり、国債費も約2倍以上に増加した。

○この時期の後半には、6%台の高い経済成長率を示すなど景気が上向き、公営企業の民営化や税制改革が行われる中で、人々は金融機関から資金を借り入れ、値上がりを見込んで土地や株の購入を続けた。

6

次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

世界の国々は、地球上の様々な地域で、人々が活動できる範囲を広げてきた。そして、<sup>(1)</sup>対立や多くの困難に直面する度に、課題を克服し解決してきた。また、<sup>(2)</sup>科学技術の進歩や経済の発展は、先進国だけでなく発展途上国の人々の暮らしも豊かにしてきた。

グローバル化が加速し、人口増加や環境の変化が急速に進む中で、持続可能な社会を実現するために、<sup>(3)</sup>我が国にも世界の国々と協調した国際貢献が求められている。



〔問1〕<sup>(1)</sup>対立や多くの困難に直面する度に、課題を克服し解決してきた。とあるが、次のア～エは、それぞれの時代の課題を克服した様子について述べたものである。時期の古いものから順に記号で並べよ。

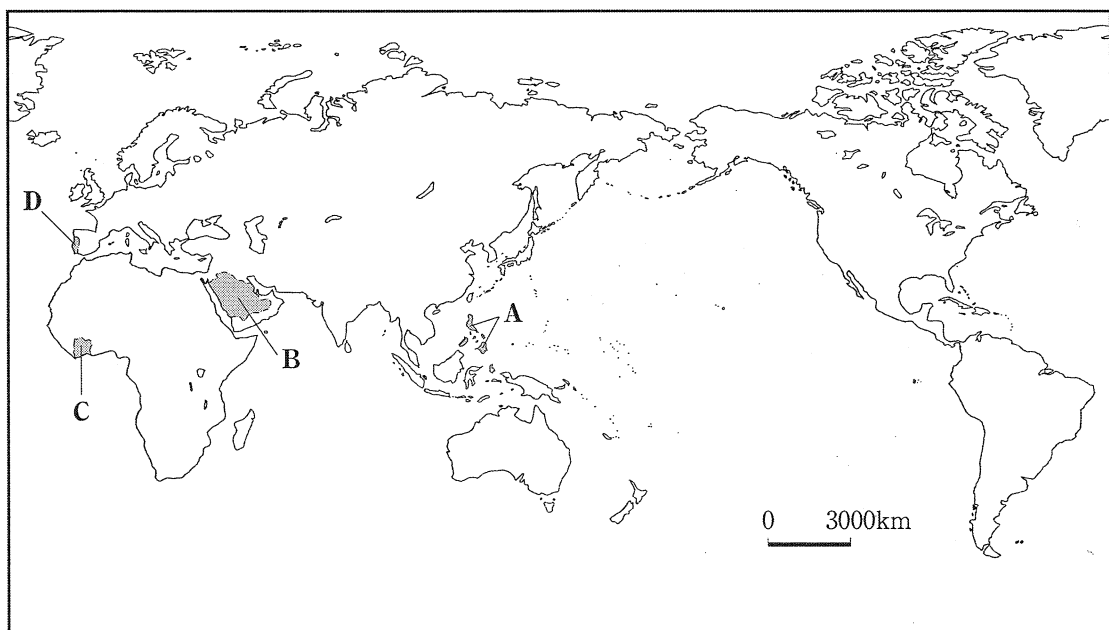
ア 特定の国による資源の独占が国家間の対立を生み出した反省から、資源の共有を目的とした共同体が設立され、その後つくられた共同体と統合し、ヨーロッパ共同体（EC）が発足した。

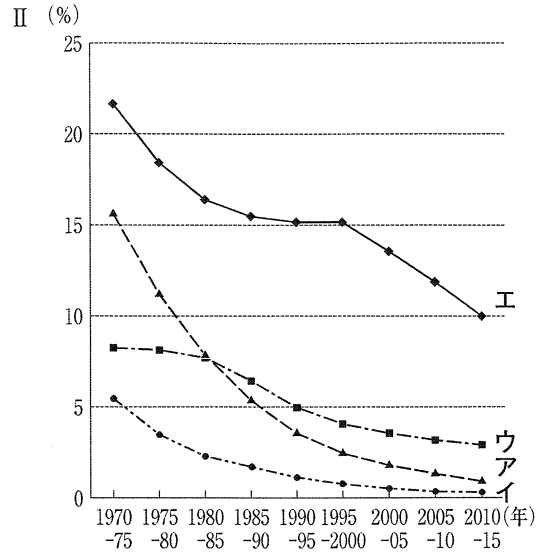
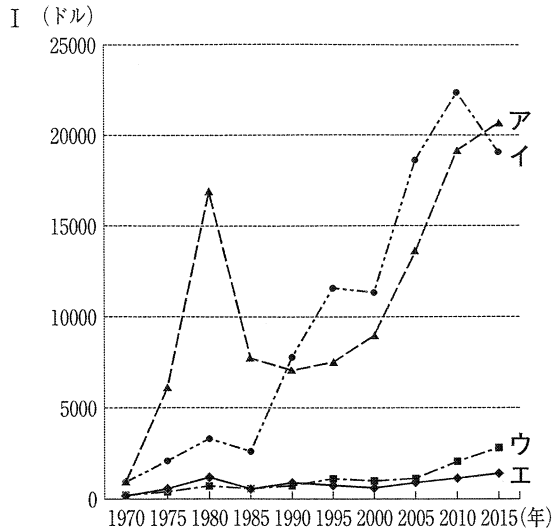
イ アマゾン川流域に広がるセルバと呼ばれる熱帯林などの大規模な森林破壊の解決に向け、リオデジャネイロで国連環境開発会議（地球サミット）が開催された。

ウ バリで講和会議が開かれ、戦争に参加した国々に大きな被害を及ぼした反省から、アメリカ合衆国大統領の提案を基にした、世界平和と国際協調を目的とする国際連盟が発足した。

エ ドイツ、オーストリア、イタリアが三国同盟を結び、ヨーロッパで政治的な対立が深まる一方で、科学者の中で北極と南極の国際共同研究の実施に向け、国際極年が定められた。

〔問2〕<sup>(2)</sup>科学技術の進歩や経済の発展は、先進国だけでなく発展途上国の人々の暮らしも豊かにしてきた。とあるが、次のページのⅠのグラフのア～エは、略地図中に  で示したA～Dのいずれかの国の1970年から2015年までの一人当たりの国内総生産の推移を示したものである。Ⅱのグラフのア～エは、略地図中に  で示したA～Dのいずれかの国の1970年から2015年までの乳幼児死亡率の推移を示したものである。Ⅲの文章で述べている国に当てはまるのは、略地図中のA～Dのうちのどれか、また、ⅠとⅡのグラフのア～エのうちのどれか。





(注) 国内総生産とは、一つの国において新たに生み出された価値の総額を示した数値のこと。

(国際連合のホームページより作成)

III 文字と剣が緑色の下地に描かれた国旗をもつこの国は、石油輸出国機構（オペック OPEC）に加盟し、二度の石油危機を含む期間に一人当たりの国内総生産が大幅に増加したが、一時的に減少し、1990年以降は増加し続けた。また、この国では公的医療機関を原則無料で利用することができる。1970年から2015年までの間に乳幼児死亡率は約10分の1に減少し、現在も人口増加が続き、近年は最新の技術を導入し、高度な医療を提供する病院が開業している。

[問3] <sup>(3)</sup> 我が国にも世界の国々と協調した国際貢献が求められている。とあるが、次のIの文章は、2015年に閣議決定し、改定された開発協力大綱の一部を抜粋して分かりやすく書き改めたものである。IIの表は、1997年度と2018年度における政府開発援助（ODA）事業予算、政府開発援助（ODA）事業予算のうち政府貸付と贈与について示したものである。IIIの表は、IIの表の贈与のうち、1997年度と2018年度における二国間政府開発援助贈与、二国間政府開発援助贈与のうち無償資金協力と技術協力について示したものである。1997年度と比較した2018年度における政府開発援助（ODA）の変化について、I～IIIの資料を活用し、政府開発援助（ODA）事業予算と二国間政府開発援助贈与の内訳に着目して、簡単に述べよ。

- I
- 自助努力を後押しし、将来における自立的発展を目指すのが日本の開発協力の良き伝統である。
  - 引き続き、日本の経験と知見を活用しつつ、当該国の発展に向けた協力を行う。

	II 政府開発援助(ODA)事業予算(億円)				III 二国間政府開発援助贈与(億円)		
		政府貸付	贈与			無償資金協力	技術協力
1997年度	20147	9767(48.5%)	10380(51.5%)	1997年度	6083	2202(36.2%)	3881(63.8%)
2018年度	21650	13705(63.3%)	7945(36.7%)	2018年度	4842	1605(33.1%)	3237(66.9%)

(外務省の資料より作成)